

授業科目名	地域看護学臨地実習		担当教員	◎川上 裕子、堀 希好	科目ナンバリング NM469
必修	開講年次：4年後期	単位：2単位	授業形態：臨地実習90時間		

【授業概要】

地域住民が住み慣れた地域に住み続けるために、個別から集団までの健康の維持・増進・回復を促進する役割を持って働く看護職の存在や特徴を知ること、地域のさまざまな資源と連携が取れる看護職になる事を目指している。実習では、地域で働く看護職の視点や技術、アプローチ方法を学び、地域住民の健康課題に関するアセスメントを行い、地域診断を行う。これによって、必要なヘルスプロモーション・予防対策に関連した具体的な実践活動が可能であれば実施する。学生は館山市・南房総市・鋸南町・鴨川市・いすみ市の市町村保健事業や、鴨川小学校・鴨川中学校・東条小学校・長狭学園・亀田ファミリークリニック・亀田クリニック等、多種多様な施設に配置される。

【授業目的・目標】

1. 地域看護学の基本概念とその活用、地域看護学を構成する活動分野、活動対象、活動方法について理解するため、配置された地域の健康・医療、福祉施設や組織について理解する。
2. 地域の特性と健康課題を理解するため、地域の保健医療福祉施設はどのようにして情報を収集しているかについて理解する。
3. 地域における個人ならびに組織としての健康課題に対処した施策に参加する。
4. 地域の保健医療福祉機関におけるプライマリヘルスケア活動に参加する。
5. 地域の健康・医療、福祉施設における看護師の健康管理や予防における役割を理解する。
6. Asset-Based Community Assessment Model を使って地域の学校や個人の健康課題やそれに対するコミュニティの資源を模索し、具体的な対策を提案する。
7. 高齢化を迎える地域社会に必要なヘルスプロモーション・予防的活動を掲げ、大学と地域が協働できる対策を提案する。

【履修条件】

「地域看護学」を修得していること。

【授業計画】

実習1日目	オリエンテーション、カンファレンス
実習2～4日目	施設実習
実習5日目	学内実習
実習6～8日目	施設実習
実習9日目	学びの整理(学内)
実習10日目	実習まとめ・発表(学内)

【教科書】

豊島泰子(2022)：看護師のための地域看護学(第3版)，ピラールプレス。

【参考書】

荒賀直子・後閑容子他(2020)：公衆衛生看護学.jp(第5版)，インターメディカル。
 厚生労働統計協会：国民衛生の動向(最新版)，厚生労働統計協会。
 厚生労働統計協会：国民の福祉と介護の動向(最新版)，厚生労働統計協会。

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度：70%、課題レポート：20%、カンファレンス・プレゼンテーション：10%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：実習地域の概況をホームページや資料等から情報収集し整理する(事前学習ノート作成、既存資料による地域診断)。実習地域の地域診断に関する内容を確認し、健康問題に対する介入方法について推測する。

事後学習：授業時配布資料および事前課題をもとに実習内容を復習し、課題の記述を行う。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素VI.ヘルスプロモーションと予防の実践能力、IX.あらゆる対象に向けた包括的看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については、学生個人に返却する(掲示により連絡する)。

【備考】

地域看護学の実践について理解を深め、広い視野で対象を看護できる素養を形成することが本実習のねらいである。各実習機関・施設(行政・学校・健康増進施設等)においては、地域住民の生活に密着した活動を展開している看護専門職者による具体的かつ直接的な指導を受けながら学びを深めることが出来る。